

2 小学校外国語活動：身近な事柄を題材とした活動例

(1) 平成版かぐや姫を劇で表現しよう

ア 本単元のねらい

本単元では、静岡県のお話を元にしたオリジナルの劇で表現することを通して、静岡県にも昔話があることを知ったり、静岡県やその他の日本の昔話について興味を持ったりするだけでなく、実際に演じてみたりすることで、気持ちを込め、ジェスチャーを付けて表現する体験をしたりする。

日本の昔話については、ある程度知っていると思われるが、どの昔話がどこで生まれたのか、また静岡県にはどのような昔話があるのかを知らない子どもが多い。それらを知ること、昔話に託された昔の人々の思いに触れ、静岡県や日本に対する郷土愛を培いたい。

また、劇を練習することを通して自分の思いを相手に伝えるための表現方法を考えたり、発表したりすることを通して、「みんなの前で堂々と表現できた」という自己肯定感を育みたい。

イ 本単元の内容

(ア) 主としてコミュニケーションに関すること

- 友達と一緒に、1つのものを作り上げる喜びを体験すること。
- みんなの前で表現する楽しさを体験すること。
- 気持ちを込めて言ったり、ジェスチャーなどを加えて表現したりすることの大切さを知ること。
- 互いの表現方法を高め合うこと。
- 友達の表現活動を楽しみながら聞いたり見たりすること。

(イ) 主として言語や文化に関すること

- 静岡県や日本の昔話を聞いて、昔の人々の思いに触れること。
- 劇の練習をすることで、英語の音声やリズムに慣れ親しむこと。

○話 題：日本や静岡県の昔話

○場 面：静岡県の昔話を演じる。

○表 現：Will you marry me? I want I'll try.

○国際理解：日本や静岡県の昔話を知る。

ウ 目標

- ① 創作劇を通して、台詞に込められた思いをより相手に伝わるように表現しようとする。
- ② 英語での絵本の読み聞かせを通して、英語のリズムに親しみ、絵を見ながら内容を推測しようとする。
- ③ 静岡県や日本の昔話を知り、昔話に興味を持つとともに、昔話に託された昔の人々の思いに触れようとする。

エ 時間配分：4時間

第1時	第2時	第3時	第4時
<p>【活動①】Let's Listen. 英語の台詞を聞いてどの物語か考えよう。</p> <p>【活動②】Let's Listen. かぐや姫の話の話を聞こう。</p>	<p>【活動①】Let's Listen. かぐや姫の欲しいものを順に並べる。</p> <p>【活動②】Activity グループで、登場する人物と、かぐや姫の欲しいものを考えて、劇を作ろう。</p>	<p>【活動①】Let's Chant.</p> <p>【活動②】Activity 劇の練習をしよう。</p> <p>【活動③】Activity 互いの表現を見て、高め合おう。</p>	<p>【活動①】Let's Chant.</p> <p>【活動②】Activity 劇の練習をしよう。</p> <p>【活動③】Activity 発表しよう。</p>

オ 指導計画(第1時, 第2時)

過程	児童の活動	教師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点 	準備物
<p>第1時: 日本の昔話がどこで生まれたかを知り, 昔話に込められた人々の思いに触れるとともに, 昔話について興味を持つ。</p>				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. I'm 	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. How are you today? 		
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本や自分たちの地域の昔話について, 知っている話を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本や地域の昔話にはどんなものがあるか発表しよう。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 台詞を聞いて, 話を考える。 ● 話の内容を確認し, グループで, 昔の人々のどんな思いが込められた話なのかを想像して話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. You look cold. Please use this hat. (かさじぞう:岩手) 2. I want to be big. I want to be strong. (一寸法師:新潟) 3. Wow! I can see Osaka and Kyoto. I can see everything. (天狗の隠れ蓑:熊本) 4. Oh, it's mine. I want to go back to the sky. Give me back. (天女のはごろも:静岡他) 5. I don't want to give my daughter to the God. Please help us. (しっぺい太郎:静岡) 6. Today is full moon. I have to go back to the moon. (かぐや姫:静岡, 奈良, 京都) </div> <ul style="list-style-type: none"> ● かぐや姫の話聞き, 内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語の台詞を聞いて, 何の話のだれの台詞か考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が表情豊かに英語で台詞を言うことにより, 場面を想像させる。 ● 話の内容を確認するのみでなく, それぞれの昔話に託された昔の人々の思いを考える。 ◆ 自国の物語についての理解を深める。 ◎ 昔話の世界に思いをめぐらせ, それぞれの話に込められた人々の思いを想像している。 <ul style="list-style-type: none"> ● 絵本を見せながら資料1を読む。 	<p>昔話の絵本</p> <p>かぐや姫の絵本</p>
<p>第2時: かぐや姫の話聞き, オリジナルのかぐや姫の劇を作ろうとする。</p>				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. I'm 	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. How are you today? 		
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 求婚している5人の名前とかぐや姫が望んだ品物を合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● かぐや姫が求婚される場面を英語で聞こう。 A: My name is ... Will you marry me? B: Oh, I want a ... A: OK. I'll try. 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の中の求婚される場面だけを読んで人と品物を一致させる。 	<p>5人の名前と品物のカード</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 欲しい物をいくつか考える。 ● グループになって, かぐや姫のほしい物と, それを持ってきた時のかぐや姫の反応を考え合い, 英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分がかぐや姫だったら何が欲しいか考えよう。 ● グループでオリジナルの劇を考え, 英語で表現しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分がかぐや姫だったら何が欲しいか考えさせることで, 劇化に対する意欲を高める。 ● アイディアが浮かばないところには具体的に例示したり, 英語の言い方が分からない班には言い方を教えたりなど, グループごとの支援をする。 ◎ オリジナルのかぐや姫の劇を作ろうと自分の意見を積極的に言おうとしている。 	

オ 指導計画(第3時, 第4時)

過程	児童の活動	教師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点 	準備物
第3時: オリジナルの劇の表現方法やセリフの言い方を工夫し合う。				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. I'm 	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. How are you today? 		
復習	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンツ 	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンツで台詞に慣れよう。 “Will you marry me?” “I want” “OK. I'll try.” “Thank you very much. I'm happy.” “I'm sorry. I don't like it.” 	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンツで言い方に慣れさせる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに、セリフの言い方やジェスチャーをお互いに工夫しながら、かぐや姫の劇を練習する。 ● 2つのグループがペアとなり、お互いに劇を発表し合い、表現について互いにアドバイスをする。 ● 劇の練習をする。欲しい物をいくつか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台詞の言い方やジェスチャーの工夫をしながら、劇の練習をしよう。 ● 2つのグループで中間発表をしよう。 ● もう1度劇の練習をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台詞を棒読みするのではなく、意味を考えながら言い方やジェスチャーを工夫するようにする。 ● お互いの表現を見合うことにより高め合う。 ◎ 台詞に込められた思いをより相手に伝わるようにと表情やジェスチャーを工夫しようとしている。 	
第4時: 台詞に込められた思いをより相手に伝わるようにと表情やジェスチャーを工夫しながら、みんなの前で堂々と表現しようとする。				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. I'm ● チャンツ 	<ul style="list-style-type: none"> ● Hello. How are you today? ● チャンツ 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに、発表に向けて最後の練習をする。 ● グループごとに劇の発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表に向けて最後に練習をしよう。 ● オリジナルのかぐや姫の劇を発表しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ みんなの前で堂々と自分の台詞を言っている。 	扇子 お面
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇をやってみての自分の感想や、友達の見ている感想などについて、振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇をやってみての感想や、友達の見ている良いところなどについて振り返りをしよう。 ● 発表しよう。 ● 教師からの視点で、児童の劇の感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りの視点を与えて、振り返りをする。 ● みんなの前で表現できたことを認め、児童の良いあらわれを中心に感想を述べることにより、児童の自己肯定感を高めるようにする。 	

カ 補足資料

(7) 日本の昔話

昔話は、生活の中から誕生し、口承されてきたものである。「むかし」や「あるところに」という不明な時や場所が用いられ、本当にあったかどうかは知らないけれどという心持ちで語り継がれている。主人公の幸福や悪人の懲罰で終わることが多く、人が生きていく上で大切なことを話にして言い伝えている。また、一定の繰り返しや三段階の話の展開などの法則がある。

【かさじぞう(岩手県)】

善悪という対比的な図式を用いることなく、純粹に正しい行いをする者は救われるという話。

大晦日の夜、貧乏なおじいさんが、かさを売りに町へ出かけたが、売れずに家に帰ろうとした。途中、6体のお地蔵様に雪が積もっているところを見かけたおじいさんは、すべてのお地蔵様に かさをかぶせてあげた。するとその夜、歌声とともにお地蔵様がおじいさんの家にやってきて、おもちゃごちそうを山のようにおいていった。

【一寸法師(新潟県)】

体の小さい一寸法師が知恵を使って、幸せを手に入れる話。

子どものいない夫婦が神様にお願いをしたところ、小さな親指くらいの男の子が誕生した。一寸法師と名付けられた男の子は、針の刀を持ち、お椀の船とはしのかいで都に出かけ、お姫様を救おうと針の刀で鬼と戦った。鬼がおいていった打ち出の小槌で大きくなった一寸法師は、そのお姫様と結婚し、幸せになった。

【天狗の隠れ蓑(熊本県)】

一休、吉四六と並んでとんち話の主演である彦一の話。

とんちを使って権力者をこらしめもするが、時には失敗するなど決して英雄ではない姿が描かれており、人々に愛されている。

天狗の隠れ蓑がほしくてたまらない彦一は、一本の竹をのぞき、「これは千里眼じゃ」と言い、とうとう天狗が持っている隠れ蓑と交換する。隠れ蓑で次々といたずらをした彦一が酒によって寝ている間に、女房が燃やしてしまう。あわてた彦一はその灰を使って姿を消すことに成功したが、酒場でこっそりと酒を飲み、唇の灰がはげたことから、主人に見付き追われることとなった。

【天女の羽衣(静岡市)】

天部に住むとされる天女が、羽衣を奪われ空に帰れなくなってしまう話。

日本や朝鮮半島などの各地に伝説が伝わっている。静岡市清水区の三保の松原には天女が舞い降りたとされる樹齢約650年の古松があり、羽衣の松と呼ばれている。

塩売りの男が松の木に掛けられた美しい布を見付け、持ち帰った。その夜やってきた美しい娘はその布の持ち主で、自分の羽衣を見付けた娘は、ひとしきりの舞いのあと、やがて羽衣を身にまとい、天に戻ってしまった。

【しっぺい太郎(磐田市)】

久しく続く人身御供の慣わしを断ち切ってくれた犬の話。

旅の僧が、ある山奥で立派な屋敷を見付けた。その家では、娘を中心に集まり泣いていたため理由を尋ねると、古い社に毎年人身御供を出しており、その順番に当たっているとのことであった。お祭りの夜、娘の入れられた棺を見ていると、化け物がやってきて、「しっぺい太郎にゃ知らすなよ」と歌うので、信州の信濃へ行き、しっぺい太郎という犬を探し連れてきた。次の年のお祭りの夜、しっぺい太郎は化け物と戦い、化け物を倒してくれた。その時の戦いでしっぺい太郎も傷つき、イチョウの木の下で倒れてしまったが、村人みんなで厚く葬った。

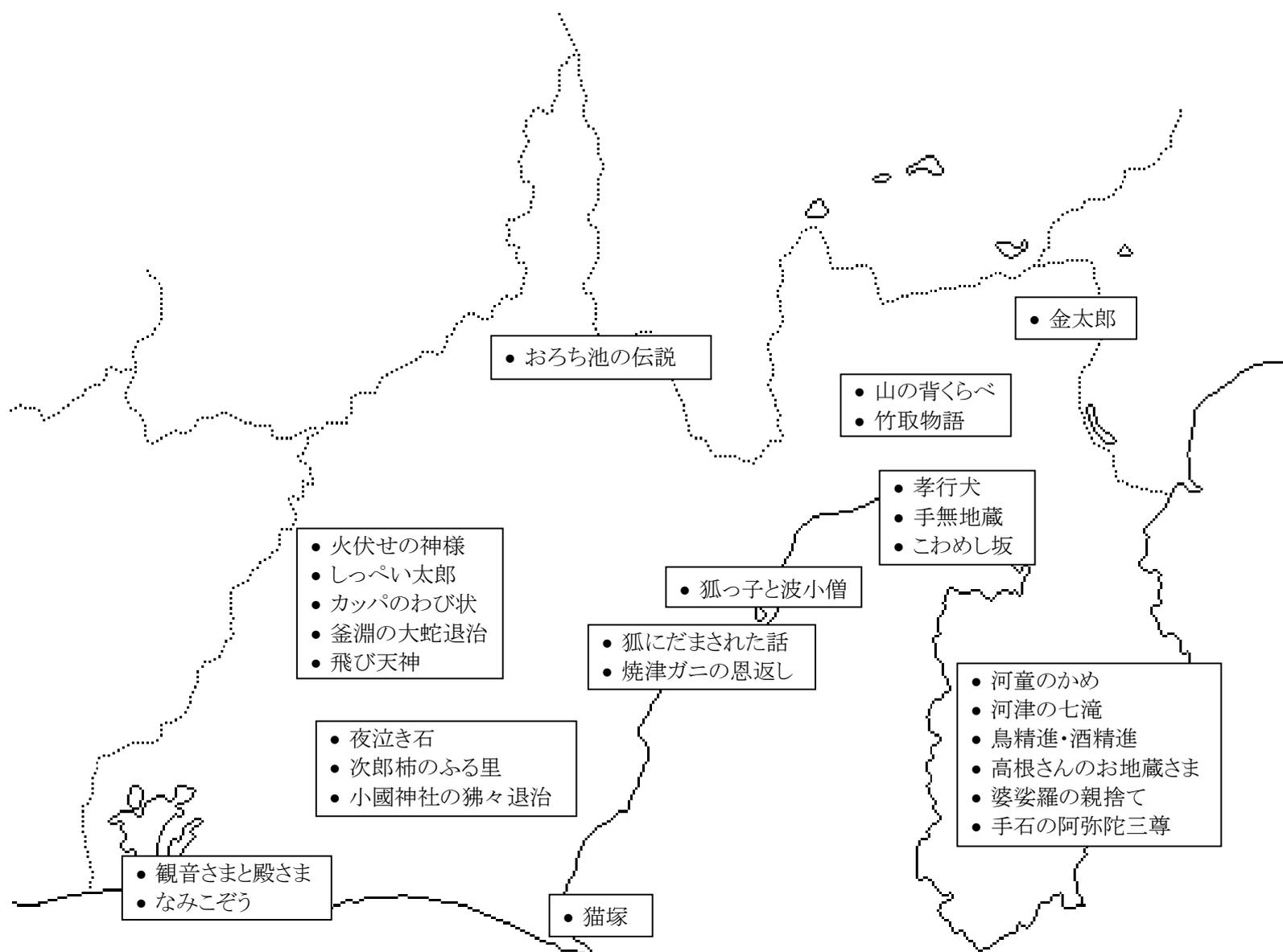
【かぐや姫（富士市 他）】

日本で初めて作られた物語文学「竹取物語」を子どもに分かりやすく紹介した話。

求婚する若者はいずれも高い位と富を持った人々であったため、無理難題を言い、求婚を断ることで、富と権力をこらしめるという権力批判の物語ではないかという説がある。

竹取物語由来の地と名乗る地域が複数あり、静岡県富士市、奈良県広陵市、京都府向日市、香川県さぬき市、岡山県倉敷市、広島県竹原市、鹿児島県さつま町の7市町では、「かぐや姫サミット」という地域間交流が開催されている。静岡県の富士市には、「竹取姫」と刻んだ小さな塚があり、翁と姫が住んだと伝えられている竹取公園がある。一般に知られているかぐや姫は、月の世界の人であり、最後には月に帰って行くが、富士市に伝わる物語では、かぐや姫は富士山の仙女で、最後は富士山の山頂に帰って行くという話になっている。

(イ) 静岡県の民話の例



(7) 英語版「かぐや姫」

Long time ago, an old man and an old woman lived near a bamboo grove. They wanted a baby very much. The old man worked hard in the bamboo grove, so he was called “Takatori-no-Okina.”

One day, the old man found a shining bamboo and said, “Wow! Why is it shining?” He walked up to the bamboo and cut it. “Wow, a baby girl! How cute!” Inside there was a very small lovely girl. He felt very happy and took her to his house. The old man and the old woman decided to raise her. She was named “Kaguya-hime.”

As the girl grew up, she became a beautiful lady. “We have never seen such a beautiful lady,” everybody said. A lot of men wanted to marry her.

One day, five young men came to her and asked to marry her.

The first man said, “My name is Ishizukuri-no-Miko. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Hotoke no Hachi.” “OK. I’ll try,” he said.

The second man said, “My name is Kuramochi-no-Miko. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Horai no Tama no Eda.” “OK. I’ll try,” he said.

The third man said, “My name is Abemiushi. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Hinezumi no Kawagoromo.” “OK. I’ll try,” he said.

The fourth man said, “My name is Otomono Miyuki. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Ryu no Kubi no Tama.” “OK. I’ll try,” he said.

The last man said, “My name is Isono Kaminomaro. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Tsubame no Koyasugai.” “OK. I’ll try,” he said.

She had requested very rare things. The five young men tried to get them, but all of them failed. “You couldn’t get what I wanted, so I can’t marry any of you. I’m sorry,” Kaguyahime said.

Later, the Mikado came to see Kaguyahime. He asked, “Will you marry me?” “I’m sorry, I can’t,” Kaguyahime answered.

Some years later, Kaguyahime began to cry every night. “Why are you crying?” Takatori-no-Okina asked. “I’m from the moon. On the night of the full moon, I have to go back home. I will miss you.”

On that day, a lot of people came from the moon to take her back. Takatori-no-Okina and his wife didn’t want her to go back to the moon, but it was impossible for her to stay.

She went back to the moon, at last.

(2) わたしのふるさと

ア 本単元のねらい

私たちの身の回りには、たくさんの音楽があふれている。音楽は、雰囲気盛り上げたり気持ちを落ち着かせたりするほか、人の心に思い出として残るものがある。その内の一つが、ふるさとを歌った歌である。普段は意識していないが、ふるさとを離れて初めてその歌のよさに気付くことがある。この気持ちは、国が違っても同じであると思われる。

歌の中には、歌詞を変えて様々な国で歌われているものがある。歌詞の通りに歌えなくても、同じメロディーを口ずさむことで国の違いを越えた心の交流をすることができるのが音楽のいいところである。

本単元では、ふるさと静岡にちなんだ歌を外国籍児童やALTと共に知り、自分のふるさとを歌を通して見つめる。また、それと同時に、歌を通して外国籍児童やALTの出身国、世界へと目を広げていく。子どもたちは、音楽科で「日本の音楽」(4年生)、「アジアの音楽」「日本の音楽」(5年生)、「世界の音楽」「日本の音楽」(6年生)において、地方や国に独特の音楽や歌があることを学習してきている。また、日常的には「今月の歌」で、月ごとに違った英語の歌にふれたり、音楽の副教材である「明るい声で」の中からもいくつかの外国曲に親しんだりしている。

単元の活動を通して、コミュニケーションを図るには、音楽も活用できるということに気付いてほしい。

イ 本単元の内容

(ア) 主としてコミュニケーションに関すること

- 音楽を通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ふるさとへの思いを込めて歌うことの大切さを知ること。

(イ) 主として言語や文化に関すること

- 音楽を通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ふるさとへの思いを込めて歌うことの大切さを知ること。
- ALTやクラスの外国籍の子の出身国にちなんだ歌を知る活動を通して、ふるさとを思う気持ちは同じであることに気付くこと。
- 世界各国にあるふるさとの歌が、言語を変えて日本でも歌われていることを知り、音楽でも世界とつながっていることに気付くこと。
- ふるさとを歌った歌には、その国・地方の文化が表れていることを知り、外国や自国の文化に対する理解を深めること。

○話 題：それぞれのふるさとを歌った歌

○場 面：それぞれのふるさとを歌った歌を知ったり歌ったりする。

○表 現：Do you know this song? Yes. No. Let's sing this song!

○国際理解：国や言語は違っても、ふるさとを思う気持ちは世界中同じであることに気付く。

ウ 目標

- ① 静岡県の歌を外国の人に知ってほしいという思いを持って紹介する。
- ② 簡単な外国語の歌を歌うことで、外国語独特のリズムに親しむ。
- ③ 一つの曲が世界の様々な言語で歌われていることを知り、世界は音楽でもつながっていることに気付く。

エ 時間配分：3時間

第1時	第2時	第3時
【活動①】Let's Listen みかんの花さく丘 【活動②】Activity 静岡にちなんだ歌を知って、歌おう。	【活動①】Let's Sing 静岡の歌 【活動②】Activity ALTやクラスの外国籍児童の国について知り、その国の歌を歌おう。	【活動①】Let's Sing 静岡とALT(外国籍児童)の国の歌 【活動②】Activity 日本でも歌われている外国の曲を歌ってみよう。

オ 指導計画(第1時)

過程	児童の活動	教師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点 	準備物
<p>第1時：静岡にちなんだ歌を知り，クラスの外国籍児童や ALT に英語を使って紹介しようとする。</p>				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつをする。 I'm good / full. 	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつをする。 How are you ? 	<ul style="list-style-type: none"> • いつもしている挨拶をすることで，活動に対する安心感を持つことができるようにする。 	
導入	<ul style="list-style-type: none"> • 担任がロズさんの歌を聴く。 • 曲について知っていることを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「みかんの花咲く丘」をロズさむ。 • What's this song ? • キーワード「みかん」に当たる英語“tangerine”を言って，絵カードを黒板に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたち全員が知っている曲を選んで歌い活動への意欲を高める。 • 静岡にちなんだ歌であること話し，主活動につなげる。 	絵カード
展開	<ul style="list-style-type: none"> • 静岡にちなんだ歌を発表し，一緒に歌う。 • 歌詞が表す情景を絵に描き，ALT や外国籍児童に紹介する。 Mt.Fuji / head / cloud / listen / thunder / No.1 green tea / eighty-eight / field mountain • 静岡出身の人が作った歌を知り，歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> • Let's enjoy Shizuoka songs. • Please teach me Shizuoka songs. (ALT がいる場合) • 他にどんな静岡にちなんだ歌があるかな？ 「ふじ山」「Mt. Fuji」 「ちゃつみ」 “Green Tea Harvest” • Do you know this song ? • 静岡出身の人が作った歌を紹介する。 「森の水車」「Millwheel」 「月の沙漠」「Desert Moon」 「汽車ぽっぽ」 “Choo Choo Train” 「かわいい魚屋さん」 “Cute Boy and Fish” 「せいくらべ」「How tall?” 	<ul style="list-style-type: none"> • 歌を表す絵カードを出し，キーワードを英語で表す。 • 歌が出るごとに少しずつメロディーをみんなでロズさむ。(ALT も知っている部分を歌うようにする。) ◎外国籍児童やALT に絵を使って英語で紹介しようとしている。 • 絵カードは，作曲者・作詞者の出身地や歌った風景の地図上の場所に貼っていく。 • 同時に，地名や地形の確認をする。 • 子どもが知らない歌は CD をかけたり担任が歌ったりする。 • 曲について説明をする。 ◆静岡にちなんだ歌がたくさんあることに触れ，ふるさどを見つめるきっかけの一つとなるようにする。 	絵カード 静岡県地図 歌集「明るい声で」童謡 CD
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 活動の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 楽しかったことや初めて知ったことはどんなことですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎静岡県にちなんだ歌がたくさんあることに気付いている。 • 歌を通してコミュニケーションが図れることに触れる。 • 次回は外国籍児童や ALT が自国にちなんだ歌を紹介することを知らせる。 	

オ 指導計画(第3時)

過程	児童の活動	教師の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点 	準備物
<p>第3時: 一つの曲が, 世界の様々な言語で歌われていることを知る。</p>				
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● あいさつをする。 I'm good / full. 	<ul style="list-style-type: none"> ● あいさつをする。 How are you ? 	<ul style="list-style-type: none"> ● いつもしている挨拶をすることで, 活動に対する安心感を持つことができるようにする。 	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 静岡や外国籍児童(ALT)の国にちなんだ歌を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● Let's sing Shizuoka and ○○ songs ! 	<ul style="list-style-type: none"> ● クイズ形式も入れて, 児童が歌えなくても活動に参加できるようにする。 	童謡 CD 静岡県地図
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報交換ゲームをして日本で歌われている外国曲を知る。 ● 分かったことを発表する。 ● 「ドレミの歌」の原曲との歌詞の違いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本でどんな外国曲が歌われているか, 調べてみよう。 Do you know this song ? ● Which country ? ● Do you know this song ? ド…ドーナツ Do…female deer 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌だけのカード(質問用)と歌と国名を書いたカード(回答用)をそれぞれが持ち, 互いに情報交換をすることを伝える。 ● 早く終わった子には, 次のカードを渡す。 ● 世界地図に歌を表す絵カードを貼っていく。 ● 世界地図に曲名を書き入れていく。 ◆ 国によって音からイメージする言葉は違うが, 同じような歌い方をしていることに気付くようにする。担任がジェスチャーをすることで, 英語とその意味が結び付くようにする。 	ゲーム用カード 世界地図 ドレミの歌 CD 英語版
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しかったことや初めて知ったことはどんなことですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ たくさんの国の歌が日本語に訳されて, 歌われていることに気付いている。 ● 浜松でショパンコンクールが開かれていることや, 辻井さんがバンクライバーンコンクールで優勝したことなどに触れる。 	



